

加温設備の点検

適切なメンテナンスや調整により能力を十分発揮させ、燃料の消費を節約することができます。

暖房機の保守点検.....清掃・点検を行い、暖房効率を高める。

ノズルの交換 目安：菊1～2年、トマト2～3年、イチゴ3～5年

温風ダクトの配置.....室内温度が均一になるように配置し、温風の噴出量を調整する。

エアシャッターの調整...黒煙が発生しない位置に調整する。

循環扇の利用.....温度ムラを少なくする。

栽培管理の注意点

作物は、光合成により生育し、光の量は品質・収穫量に大きく影響を与えます。

栽培する作物の生理にあった光・温度管理に留意し、収量・品質を維持しましょう。

変温管理.....複合環境制御装置・変温サーモを活用して、作物生理にあった加温・管理をする。

かん水管理.....少量多頻度にすることにより、地温の低下を防ぐ。

光線量の確保.....光がよく当たるように整枝や誘引方法などの改善を行う。

フィルムマルチ利用.....地温の確保及び湿度変化を防ぐ。

病虫害予防

温室は密閉されると高湿度状態になり、灰色カビ病などの多湿病害が発生しやすくなります。

多湿病害を予防するには、湿度環境を改善することが重要です。

多湿病害の発生メカニズム

気温低下にともなう温室の密閉化



空気の停滞・湿度上昇(モヤ発生)



作物体の濡れ(水滴)



多湿病害の発生

湿度対策

循環扇等により室内の空気を循環させる
マルチフィルムを利用する

病虫害防除

罹病箇所除去
適正な農薬使用
過かん水による軟弱生育を防ぐ

園芸施設の 省エネルギー対策

重油の使用量を単純に削減した低温管理は、生産物の収量や品質の低下を伴い、最終的に農業所得の減少につながる可能性があります。

収量や品質を維持するため、施設環境や栽培管理を見直し、省エネルギー対策に取り組みましょう。

施設の保温強化

被覆の資材や方法によって保温効果が高まります。

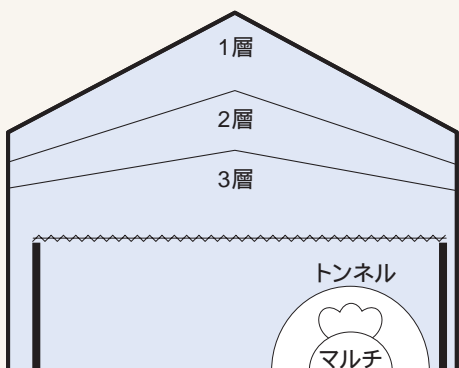
被覆資材.....フィルムを変更することで保温が良くなる（例 PO 農ビ）。

材質による放射熱の比較

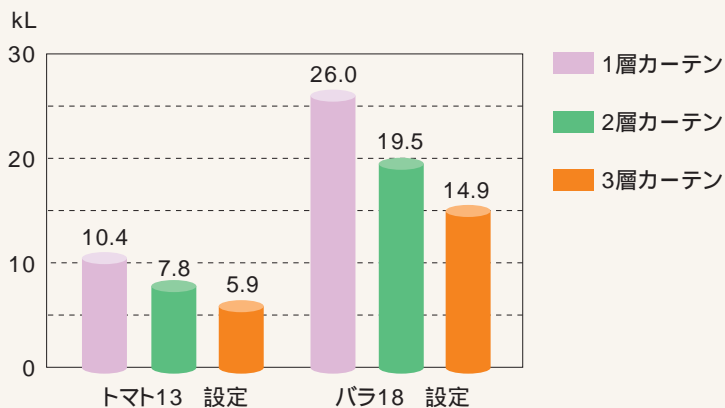
ポリエチレン > POフィルム > 農ビフィルム > アルミフィルム

施設内への光の透過率を高めるため、古いものは交換しましょう。

施設の多層被覆.....多層被覆にすることで保温効果が高まる。



多層被覆方法



被覆による重油消費量の比較「屋根型2連棟」
(数値はあくまで目安です)

施設側面の断熱.....サイドカーテンの利用（サニーコート、反射シートなど）

隙間風の侵入を防ぐ.....北西側の換気口や使用しない出入口をビニール等で止める。

サイドカーテンの裾をパイプや土で固定する。